



臨床の知と技

-作業をもちいる関わりのコツ-

Hiroshi Yamane ; OTR, PhD
Chairman of Society of Human and Occupation-Life:SHOL
Professor Emeritus of Kyoto University

作業をもちいる関わりのある日

ボランティアで入っている精神科OT
掌(たなごころ)に土をくんで
患者さんと話していたら
ふっくらあたたかいかたまりに

なんとなく中をくりぬいて
さわっているうちに
大きな母さんに思えてきた

それならと
少しへこみとふくらみをつけ
膝の上に赤ちゃんを置いてみた

対象のすべてを包む母性性
論理的で客観的な判断ができる父性性
二つを併せもつセラピストでありたいと
臨床を続けてきました



このながれのなかに作業をもちいる関わりのコツがいくつか
何に気がつきましたか？

作業をもちいる関わりにおける作業とは？

作業をもちいる関わりでもちいる作業とは生活行為すべて
それはひとの暮らしにおいて目的と意味のある作業
食事、入浴、整容、散歩、買い物、交流など
日常生活に関するものをはじめとし
仕事など役割活動
そして生活を豊かにする余暇など



作業をもちいるには
まず作業の機能を知り
作業をすることが意味ある体験として残る関わりをする
それには作業を生かすことばとことばを生かす作業が必要

ひとにとって作業とは？ 作業するとは？

ひとは
生きるために
作業する
作業すること
で
学び 育ち
作業すること
で
不安を軽くし
生活を楽しむ

ひとが生きるために行う生活行為には
苦しくても少し努力が必要なものもある
大切なことは
その作業をすることを楽しくすること
日々の作業(生活行為)が楽しくできること

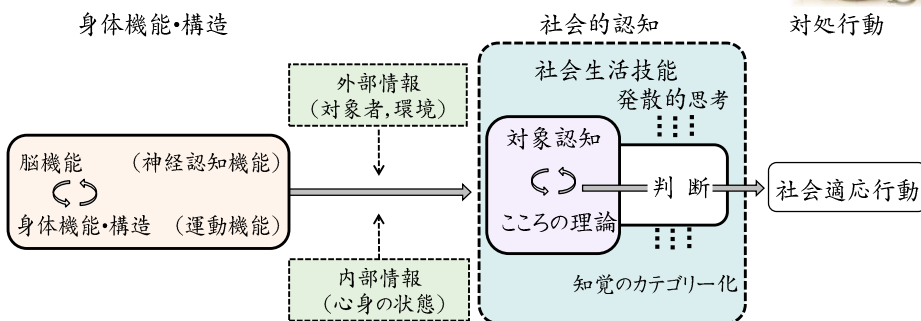
作業をもちいる関わり

- 特性** 対象の状態とニーズに応じて作業や構造を組み替える
- 役割** 生活機能評価(心身機能, 活動状態, 生活環境, 他)
生活支援機能(機能障害の軽減, リハビリネス, 生活技能の習得汎化
リハビリー支援) → **社会脳の働きup**
- 機能** ことばと作業により脳機能を直し、再学習
具体的な体験による心身機能の維持・回復自己認識と行動変容
- 手段** ひとが生活するうえでおこなう生活行為
- 領域** 医療, 保健, 福祉, 教育, 就労, 他

ストレングスモデルに基づき 具体的な生活行為を通して
個々の生活機能を評価し 急性期はリハビリネス
回復期は生活とリハビリー支援 → **社会脳の働きup**

社会脳という視点

作業で社会脳 *social brain* を育てる



社会脳の機能：自分が置かれている状況や対象との関係を理解し、
判断し、適切に対処する社会的認知機能

社会脳は目的のある作業(生活行為)を通して育つ

他の関わりとの違い

	種類	介入手段	特性
身体療法	薬物療法 他	薬物 ECT等	<i>physical</i>
精神療法	精神分析療法 小精神療法 一般精神療法 認知療法 行動療法 (家族療法)	言語	<i>human verbal</i>
作業療法		作業 + 言語	<i>non-human non-verbal physical + verbal</i>

身体療法は症状の軽減, 基本的な心身機能の改善
 言語を主媒介とする対話型療法は情動の安定と自己認知
 作業療法は, 具体的な体験による基本機能の維持改善・社会脳の機能向上

精神科における作業療法は, 薬物による症状の軽減・安定を基盤に精神療法などと相補し, 作業の非言語特性と具体性, 現実性などの特性を活かし, それぞれの疾患や障害の病理特性を考慮した日常生活や社会生活の支援をおこなう。

作業をもちいる関わりにおける作業の意義

作業をもちいる関わりにおける作業の意義は
 作業をすることではない

セラピストとクライアントが作業を介して関わる。そのプロセスを経て得られるクライアントの生活における満足感や心地よさといった感覚的变化、それこそが作業療をもちいる関わりにおける作業の意義

その意義が形になるかわり
 それこそが作業療法における「かかわりのコツ」

作業をもちいる関わりは
 作業(生活行為)を介した
 ひとつひとつのかかわり

理論やモデルは何をもちいてもよい

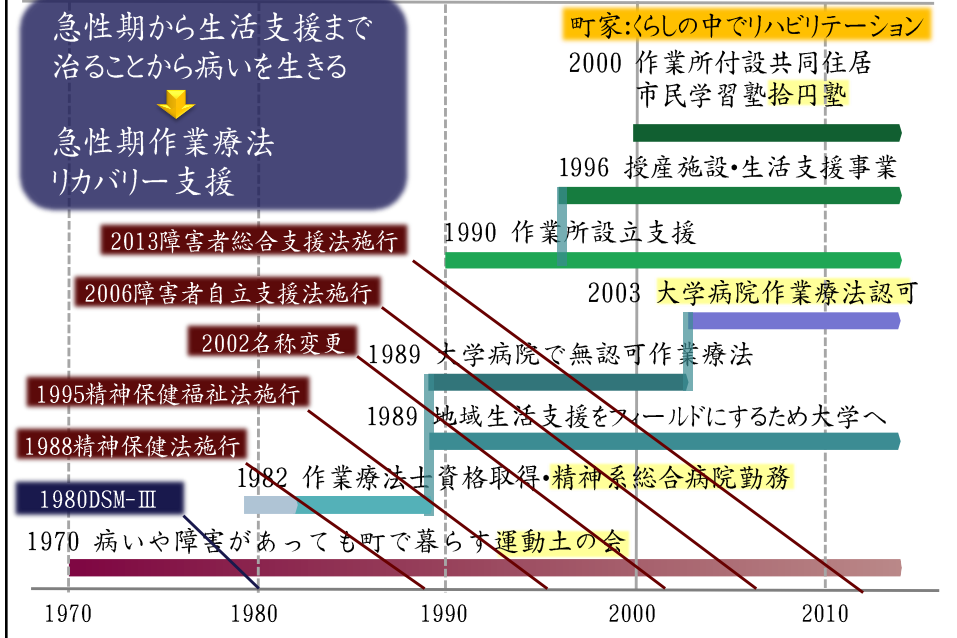
理論やモデルは 何をもちいてもよい
自分が 分かるものをもちいればよい

何をもちいても 目的と結果を
主体となる対象者 共にたずさわる人たち
だれにもわかる
普通の言葉で伝えられればよい

リハビリテーションの実践の場は
特定の理論や技法を实践する場ではなく
対象者の生活上の問題を解決する場

対象者の問題を解決するために
必要な理論や技法を 柔軟に選択し
臨機応変に用いる姿勢が求められる

私の臨床経験



臨床で得たコツのいろいろ

ひとは自分というただ一つの身体を通して成りたつ

だますよりだまされてみる

観せて待つ

ライフストーリーを読む

失敗しないことより失敗に終わらせない工夫

できないことをできないままにしない

配慮はしても遠慮はしない

ことばと作業で脳を糺す

ことばで括る 適切な知覚のカテゴリー化

ことばを物として手渡す

病は事故ひとり
自ごと身体は身体をもつ
乖離を引る身体として
生活に支障をきたす
その身体を通して
母寮の馬を他者に伝
世の世を知り実現する
私を知るは
だれのものでもない
秘の身体を通して
私だ世界の身の働を運
秘すべきことを判断し
身傍の邊しを他者成
その思いを実現する
私が或るといふこと
それは
私という身体を
私が生きているといふこと

脳は身体から得る情報により考える
身体は作業により情報を確かめる



だますよりだまされてみる

事例1：「頭の中に卵があって苦しい」という
統合失調症のAさん



} どう対処しますか？
何が考えられますか？

観せて待つ

事例2：「おニャン子クラブ知ってますか？」とある日突然

事例詳細は略

ライフストーリーを読む

事例3：「私は、新K大病院の教授」と外来患者に

事例詳細は略

失敗しないことより失敗に終わらせない工夫

- 素材と用具の特性を知る
- 素材と用具は本物もちいる
- 工程分析をしてpoint of no-returnを確認
- 失敗とは何かを考える

できないことをできないままにしない

- 1960年代から1970年代初期のりは**Weakness model**
PTの歩行訓練, OTの上肢動作訓練ADL訓練が主
- ADL訓練の限界からQOLという考え方
- できることを活かすという**Strength model**
- できないことをできないままにしない



配慮はしても遠慮はしない

- 配慮と遠慮の違い
- 当然ある支援する者支援を必要とするものの機能の差
- その違いを認めてそれぞれができることをする
- 共生 (ともいき)

ことばと作業で脳糺す



ピンポン球大の粘土の塊

「何も作らなくていいので、この粘土をできるだけ薄くおなじ厚さになるようにしてみましょう」

特定の脳機能課題

- 新しい知識や技術, 作業遂行時に判断を要さない
- 手順が明確
- 適度な繰り返しとリズム



指先で粘土を摘むと(単純な動作の繰り返し)
粘土を薄くおなじ厚さにする(特定の脳機能課題)
手指の屈伸にともなう深部覚、触覚からの感覚(身体の使用に伴う現実的感覚刺激)に意識が向けられる



自分の身体から生じる現実の感覚が脳にフィードバックされ、
運動企画が見直され手指の動きが修正される
脳はこの脳機能課題をするために役割が生まれ迷走が止まる



作品を作るためではない
作業の結果としてできたもの
素焼きにし、釉をかけて焼く

離人感があるので何もせずに
休みますといていた少年に
ある脳機能課題を



ことばで括る 適切な知覚のカテゴリー化

事例4：認知症のデイサービスでの出来事
お昼の時間に原因はわからないが急に怒鳴って
しばらく激高.さて帰りのバスで送るとき



どのような言葉をかけますか？
言葉のかけ方の影響は？

ことばを物として手渡す

- ① 手渡すことができるまで近づき
- ② 相手と目を合わせる(アイコンタクト)
- ③ 双方の態勢が整うのを待つ
- ④ 相手の受け取り能力(覚醒度、認知能力)にあわせ
- ⑤ 手渡す「ことば」の量を考え
- ⑥ 手渡す(話す)速さを配慮し
- ⑦ 受け取る(聞く)準備ができたことを確認して
- ⑧ 一度に理解できる量(内容)を手渡す(話す)
- ⑨ 相手が受け取った(聞いた)ことを確認
- ⑩ 次の「ことば」を手渡す



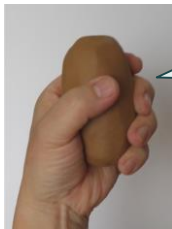
どうすればいいのか 作業をもちいる関わりの技

こんな工夫をしています

たとえば

「なにもするきがしない」という人に

たとえば「何もする気がないたくない」



手で一握りできるくらいの粘土を手渡し
粘土の片方が握った親指と人差し指から
2~3cm頭が出るようにします



ギュッと握ってもらいます



粘土をり回しながら正面を決め、
正面が決まったら、つまんだり指を
押しつけて耳や鼻を作り、
目や口を竹串で描きます。



モデルとツーショット

何もする気がないと見ていた人が、いつの間にか粘土を握っている
一つ二つとできるにつれて話の輪が

このプロセスのなかで、対象者の認知機能を含み回復状態をスクリーニングする
作業を介した機能評価とリハビリネス

2000年～2009年の主な言語化の試み



2005年8月刊行

2007年6月刊行

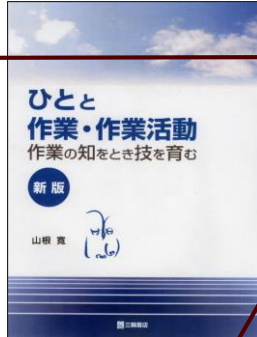
2007年9月刊行

2008年7月刊行

2009年5月刊行



2010年以降の主な言語化の試み

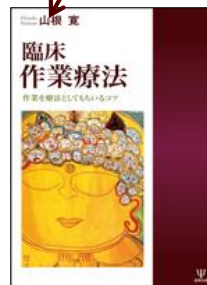
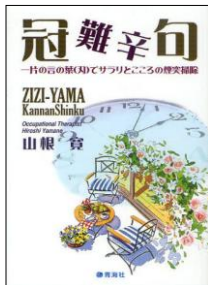


2010年3月刊行

2015年4月刊行

2013年7月刊行


2014年6月刊行



深めよう！ 広げよう！ 作業療法の技術

作業療法の技術
 なにを深め なにを広げるか
 今一度振り返ってみましょう
 本当に求められている
 作業療法をしているだろうか
 できているだろうか
 気がつかないまま
 不幸な作業療法士に
 なっていないだろうか





ひとはみな歳をとります
私もいろいろ
これまでのようには
できないことが
ふえています
機能が低下しても
今暮らしている町で
安心して暮らせる
そのような国であってほしいです

第16回 W F O T 大会ご進講で
皇后陛下が述べられたお言葉より